



|2| 記録カードの作成

|3| 記録カードの撮影





〈前時まで〉

1時間目、「冬」を見付けて撮影し、アルバムに名 前をつけて保存した。平仮名(五十音順)打ちができ るようにキーボードの設定をしておいたので、スムー ズに名前がつけられた。

2時間目、友だちに紹介したい写真を1枚選び、共 有ドライブにアップロードした。漢字は読み仮名をふ って板書し、大型テレビに映して一緒に進めた。

タブレットを活用することで、児童が意欲的に活動 に取り組めた。また、全体の写真(児童の考え)を瞬 時に把握できるので、次時の授業を考えやすかった。

〈本時〉

自分が撮った写真を見ながら、記録カードに絵を 描いたり、気付いたことを書いたりした。児童は、 自分のタブレットに必要な写真を表示し、戸惑うこ となく活動に入った。

タブレットを活用することで、寒い時期にもスケ ッチがしやすい。また、スケッチするものが動かな い分、描きやすく、細かいところまで描いている児 童が多かった。

〈本時〉

記録カードが書けた児童から、カードを撮影し、 共有ドライブにアップロードした。アップロードの 手順は、黒板に貼っておいて確認できるようにした。 写真をアップした経験を生かし、どんどん進めるこ とができた。

タブレットを活用することで、友達のカードをす ぐに見ることができ、何を書けばよいのか分からな い児童の気付きを助けることができた。

授業者の声

よかった点

- 自分が撮影した写真が、テレビに表示されることで、意欲的に活動に取り組めた。また、全員が写真やカードをアップロードすることで、活動に参加しているという意識が高まる。
- ・全員が写真をアップロードすることで、
 友だちのものや教師が加えたものなど、
 自分以外の考えを知ることができた。

- ・写真を見て記録カードを書くのは、初めてだったため、写真の全体をかこうとする児童がいた。拡大機能を使って、必要なものに焦点を合わせて書かせたい。
- ・記録カードの形に合わせて、タブレットの向きをかえて撮影した写真が、テレビ表示した際、横向きになってしまった。
 色々な機能を試して授業に臨みたい。

2 2年の実践(国語)

タブレット活用場面

詩を選び、視写する場面

単元名 詩の楽しみ方を見つけよう

本時のねらい

友達に紹介したい詩を探して視写し、紹 介し合うなかで、読んで感じたことを共有 することができる。

使用機器等

タブレッ	使用機能 アプリ等	Googleドライブ
F	使用台数	教師 台 児童28台
他のICT機器		大型テレビ

授業の流れ

主な学習活動	○指導上の留意点□タブレット活用場面
1. 本時の学習活動を知る。	○本時の学習活動を伝える前に、前時の学習を
友だちにしょうかいしたい詩をさがし、 えらんだ詩をしょうかいしよう。	振り返る。
2. 詩を選ぶ。【個別】	►□教科書や詩集からあまり長くない詩を選んで一覧にしておき、共有フォルダ内に 用意しておく。
	►□前時に学習した、詩のいろいろなよさを まとめた文書ファイルを共有フォルダ内 に用意しておく。
	➡□作者名が漢字になっている詩があるため、作者名の読み方を記したファイルをドライブの共有フォルダ内に用意しておく。
	○大型テレビで、タブレットの使い方の手順を 確認する。
 3. 選んだ詩をワークシートに書き、その詩の気に入ったところも書く。 	 〇机間巡視をしながら、ワークシートに詩を書く児童が出始めたら、詩の気に入ったところを尋ね、詩の読み間違いや内容の勘違いがないか確かめる。 〇理由まで書き終わった児童には、詩に添える絵を描いてよいことを伝える。
 選んだ詩を紹介し合い、紹介された詩についての感想を伝え合う。 	 ○時間があれば、友達に紹介された詩についての感想を書かせる。
5.本時の学習の感想を発表する。	

タブレット活用の効果

詩を選び、視写する場面

活動の様子とタブレット活用の効果



タブレットで各自が自由に資料を閲覧できる ようにしておくことで、各自に資料を一つずつ 提供したのと同じ環境が用意できた。

そのため、児童は資料の見たい部分を各自が 自分のペースで見ることができた。



選んでおいた詩は、字の大きさが様々である が、タブレットでは画面の見たいところを指先 で拡大したり縮小したりすることができる。 そのため、児童は、自分の見やすい大きさに 調節するなどしながら、詩を読んだり、視写し たりすることができた。

授業者の声

よかった点

- ○見せたい資料を各自に用意しなくても、児童 が自分の見たい所を自分のペースで見ること ができる。そのため、短時間でも児童が多数 の詩のなかから、友達に紹介しやすい詩を選 択することができた。児童が楽しそうに、集 中して学習に取り組んでいた。
- ○タブレットの操作について、児童同士で助言 し合う様子が見られた。児童の情報活用能力 の向上につながると考えられる。

- ○今回、児童が詩を選ぶために用意したデジタ ルデータは、次年度の2年生の担任に参考資 料として引き継ぎたい。
- ○授業後に、自主的に詩を視写してその詩のよ さを記述してきた児童がいた場合は、共有フ オルダにアップロードして、他の児童に紹介 したい。
- ○今回の授業のように、前時の学習内容を参考 にして学習を進める場合には、板書を撮影し ておき、児童に提示してもよかったと思う。

3 2年の実践(音楽)

タブレット活用場面

```
( 1 動画再生
```

2 授業の振り返りアンケート

1 単元名 いろいろながっきの音をさがそう

教材名 「かぼちゃ」 (桑原ほなみ作詞/黒澤吉徳作曲)

- 2 本時の展開
 - (1) ねらい

前時に撮影した練習の様子を見て、班のみん なでよい点や改善点を話し合い、よりよい演 奏をすることができる。

タブレッ-	使用機能 アプリ等	カメラ機能 Google Classroom Google フォーム
Г	使用台数	教師 I 台 児童29台
他のICT機器		デジタル教科書
		大型テレビ

主な学習活動	○指導上の留意点□タブレット活用場面
1. 発声練習(常時活動)と合唱とリズム打ちを行 い、本時のめあてを確認する。	○「かぼちゃ」のリズムが正確に打てるか、 確認をする。
めあて えいぞうを見て、よいところやなおしたほう がよいところをみんなで話し合って、さらに よいえんそうにしよう。	○前時に録画した各班の映像をClassroomにア ップし、児童が見られるように準備する。
2.前時に撮影した練習の様子をタブレット で確認する。	 ▶ 1 各班1台のタブレットで、同時に動画を 見る。 ○ 個別に見るのではなく、班のみんなで見な
 ○班ごとに前時の合奏を動画で確認し、よい点と 改善点を話し合う。 ・だんだん速くなっている。 ・最後はもっと大きい音で演奏しよう。 ・太鼓の音は大きいから、あんまり強く叩かない ようにしよう。 	がら意見交換をしていく。
○話し合ったことを参考にして、班ごとに練習を 始める。	○話合いが進み、意見がまとまった班から楽器の準備をして、練習を始めさせる。
3.本時の振り返りアンケートを行う。	 ◆2自分のタブレットを使用して、Classroom からGoogleフォームの質問に答える。 ◆2質問に答えられたら、送信をする。
○Classroomにある質問シートに答えて、授業の振 り返りを行う。	

タブレット活用の効果

活動の様子とタブレット活用の効果





- ・動画を見ることで、自分たちの演奏している
 様子を客観的に捉えることができた。
 ・動画を繰り返し見ることで、よい点と改善点
- に多く気付くことができた。





アンケートに答え終わるとすぐに送信して
 集計ができるので、その場で授業の振り返り
 が確認できる。学級全体の結果もグラフ化さ
 れるので、分かりやすい。

授業者の声

よかった点

- ・自分たちの演奏を客観的に捉えることが できた。他者からの助言よりも、実際に 自分たちで確認する方がより強く意識 して改善しようとする姿勢が見られた。
- ・本時の振り返りアンケートは選択式なの
 で、2年生でもあまり時間がかからずに
 行うことができた。

- ・前時の演奏と本時の演奏を比較して、課題
 達成ができたか確認をしていけるように
 する。
- ・本時の振り返りは、回数を重ねて慣れてきたら、記述式の導入もしていきたい。

- 4 3年の実践(国語)

 タブレット活用場面

 ① Q R コードで動 画を取り込む

 ② 発表動画を作る

 ③ 動画を送り互い に見合う。
- 1 単元名 4. 読んで感想をもち、伝え合おう「ありの行列」(説明文)
- 2 本時の展開

(1)ねらい

単元のまとめとして、説明文「ありの行列」を 読んで心に残ったこと、もっと知りたいこと、 考えたことなどを発表動画にして伝え合う。

タブレット	使用機能 アプリ等	カメラ	
Γ	使用台数	26台	
他の]	CT機器		

主な学習活動	○指導上の留意点□タブレット活用場面
 教科書 P103「まとめよう」を読んで、学習課題を知る。 「ありの行列」を読んで、心に残ったことやもっと知りたいことを動画にして伝えよう。 自分が伝えることを考える。 自分の考えをワークシートに書く。 自分の意見を伝える。 考えを動画で伝えるときに重要なことや手順を知る。 手本の動画を見る。 	1QRコードを読み取り、動画(約1分)を 再生したり一時停止したりしながら、課 題に取り組む。
自分の意見を伝えるための発表動画を 作る 動画を送って、見合う。	 2カメラの動画機能を使って発表動画を作る。 ○話す速さや間の取り方を確認しながら作るため、発表時間は30秒程度に設定する。 3作った動画を共有ドライブの指定したフォルダに入れて、互いに見合う。

タブレット活用の効果	活動の様子とタブレット活用の効果
日一時停止や繰り返し再生をしながら、 ある程度自分のペースで学習できた。	 ・QRコードの読み取りや、資料動画の再生と 一時停止にはなれていたので、比較的スムーズに活動が進められた。児童は自分の気になる場所で動画を止めて考えたり、最後まで見て思いつかないときは最初から見返したりするなど、自分の学習スピードに合わせて活動していた。 ・別の授業では、QRコードを使った本時のような活動ができなかった場面があり、その原因を授業者が把握できていないことが不安である。
2作成した動画を見返すことができるため、話す速さや間の取り方を確認しながら作ることができた。	 ・発表動画に紙に書いた文字テロップを入れる ことを提案したため、作成に時間がかかってし まった。発表動画撮影は初めての学習だったの で、基本的な話す速さと間の取り方を意識させ ることだけでよかった。 ・自分を映す動画に慣れていなかったため、録画 時に左右が反対になることに戸惑ったり、操作 に時間がかかったりする場面が見られた。慣れ ることで解消すると考える。短時間で作成でき るようになることで、修正する時間が増えて、 発表動画の質の向上も見られると思う。
3繰り返し見られることで、自分との 比較やよい所を見付ける活動がしやす かった。さらに、保存しておくことで、 今後の同じ活動をするときに役立つ。	 ・発表動画の送信場所がまだアップされていなくて、すぐ見付からない児童がいた。 ・手順を黒板に書いたが、多くの児童は自力で送ることができていた。 ・全員の動画を見るには、それなりに時間がかかってしまう。
授業者の声 よかった点 ・一人一台なので、自分の安心感が生まれて、それ ・動画を資料や発表で活用 活用で、比較したり確認	のペースに合わせた学習がしやすいため、学習への れが意欲の持続にもつながっている。 用する場合、繰り返し再生や一時停止などの機能の 認したりしやすい。
 今後に向けて ・児童間の操作技能の格 いマニュアルメモの作 ・急なトラブルへの対応 ってしまうので、授業 	差をなるべく減らすために、教え合いや分かりやす 成などの工夫が必要である。 力がないと、授業への児童の安心感も意欲もなくな 者の勉強が必要である。
_	小 12

5 4年の実践(算数)

- タブレット活用場面
 1 撮影
 2 自分と他者の考えを共
 3 ドリルパーク
- 1 単元名 面積「長方形と正方形の面積」
- 2 本時の展開
 - (1)ねらい

長方形の求積公式を活用し、複合図形の求積 方法を図や式、言葉を用いて説明することが できる。

タブレット	使用機能 アプリ等	カメラ機能 共有ドライブ
r	使用台数	教師 台 児童 9 台
他の]	CT機器	大型テレビ





活動の様子とタブレット活用の効果

- ・プリントに書いた自分の考えを iPad に撮影し、 共有ドライブに送る。自分の考えがアップされる ことで、学習意欲の高まりにつながった。
- ・アップされることで、1つだけでなく他の解法を 考える児童が多くいた。





- ・iPad で、写真の見たい部分を拡大して確認できるため、活発に意見交換することができた。
 児童 A:「ぼくと同じ考えだ。」
 児童 B:「分かった!そういうことか。」
 児童 C:「他の解き方も見付けたよ。」
 ・自分の考えを見いだすのが苦手な児童も、手元の操作で友達の考えを共有できるので、授業に参加
- することができた。 ・自分の考えを発表することで、改めて自分の考え を深めることができた。



- ・実際に問題を解くことで、学習の定着をはかることができる。
- ・ポイントがたまっていくので、ゲーム感覚で楽しく取り組むことができる。

授業者の声

よかった点

- ・iPad の画像を手元で拡大しながら友達の考 えを理解しようとしている児童が見られた。
- ・普段発言の少ない児童の考えも取り上げる ことができた。

今後に向け

・児童個人のフォルダを作成し、今後の授業 に(既習事項の確認などに)生かせるよう にしていきたい。

6 4年の実践(理科)	
タブレット活用場面	
1 教材の提示	2 発表シー
1 単元名 季節と生物 [6]	

ートの作成

2 本時の展開(6時間目/全7時間)

(1) ねらい

季節ごとに行ってきた生物の観察結果を基 に「発表シート」を作成することを通して、 季節ごとの動物の活動や生物の成長の変化について、根拠のある予想や仮説を発想し、表 現することができるようにする。

タブレッ-	使用機能 アプリ等	スライド (Classroom、Chrome)
	使用台数	教師 台 児童 9 台
他のICT機器		大型テレビ

主な学習活動	○指導上の留意点 □タブレット活用場面
1. 学習内容を把握し、めあてを確認する。 【一斉】	 1 - 1 大型テレビにミラーリングして春、夏の動物 ・ 植物の写真を見せる
 ●春に動物の活動や植物の成長を観察したときに どのようなものが見付けられましたか。 ・カエルの卵があった。 ・サクラが咲き始めていた。 ○夏に動物の活動や植物の成長を観察したときに どのようなものが見付けられましたか。 ・カエルになっていた。 ・サクラは葉がおいしげっていた。 ・トカゲがたくさん見付かった。 ○季節により動物の活動や植物の成長はどのよう に変化するのだろう。 ・夏になると動物の活動は活発になる。 ・冬になると植物は枯れてしまう。 身近な動物の活動や植物の成長が季節により、どのような変化をするかまとめ、気付いたことを発表しよう。 	 ○春、夏、秋、冬と季節が移り変わると、動物の活動や植物の成長の様子はどのように変化するかを考えさせ、めあてにつなげていく。 1 - 2 大型テレビにミラーリングして、シートの作成方法を確認する。 ○ミラーリングで説明するが、紙ベースでも確認ができるようにしておく。
 2. 学習の流れを確認する。【一斉】 ①春、夏、秋、冬のシート作成 ②まとめのシートの作成 	2 スライドを使って写真を取り込み、文書を打 ち込み、発表シートを作成する。
3. 発表シートを作成する。【個別】 まとめのシートを作成する場面で、季節ごと の動物の活動や植物の成長の変化について考え させる。	 で個別指導で対応する。 ローマ字入力が苦手な児童に対しては、ローマ字シートを活用させる。 作業が順調に進んでいる児童の作品をミラーリングで他の児童に示し、参考にさせる。 まとめシートの部分では、必要に応じてもうー度考え方を確認する。 自分の考えがまとまり、時間に余裕がある児童は、発表シートのまとめ部分を充実させるために、Classroomと Chromeを使って、生物の季節ごとの変化について調べさせる。



タブレット活用の効果

1 教材の提示





本時の学習のめあてをつかむ場面で、児童全員が同じ 画面を見ながら、春の動物の活動や植物の成長の様子を 見たり、夏の動物の活動や植物の成長の様子を見ること により、季節により動物の活動や植物の成長がどのよう に変化していくかが捉えやすかった。

本時の学習の流れを確認する場面でも、春・夏・秋・ 冬のシート作りと、まとめのシート作りの方法が視覚と して捉えやすかった。





児童一人一人が、自分のテーマに沿って発表シートを 作っていたので、とても意欲的に取り組むことができた。 また、自分がスケッチしたものを写真に取り込んで活用 したので、更に自分のシートを作成するという興味・関 心が高められた。

春・夏・秋・冬のシートを作成することによって、季節により動物の活動や植物の成長が変化していくことを 再認識することができた。このことにより、まとめのシ ートの内容を、より一層充実させることができた。

授業者の声

よかった点

- ・教材の提示では、視覚的に内容を伝えることができた。
- ・発表シートの作成では、個々に作成させた ので意欲的に取り組むことができた。

- ・担当の自分が使用アプリ「スライド」の使い 方を熟知していないので、児童のトラブル場 面で適切な指導ができなかった。
- 4年生の段階では、ローマ字入力にまだ慣れない児童がいるので、使用アプリを「スライド」ではなく、手書き入力のできる「ジャムボード」を活用した方がよかった。授業の担当者として、児童の実態に応じたアプリを選択できるように研修をしていきたい。

7 4年の実践(体育)

タブレット活用場面



1 単元名 保健 育ちゆく体とわたし

2 本時の展開

(1)ねらい

体は年齢に伴って変化すること、発育・発達の 仕方や時期には、個人差があることを理解で きるようにする。

タブレッ-	使用機能 アプリ等	Google Classroom Google フォーム スプレッドシート
Γ	使用台数	教師 台 児童 9 台
他のICT機器		大型テレビ
		AppleTV

(2)授業の流れ(1/4時)

主な学習活動	○指導上の留意点□タブレット活用場面		
 1. 学習を把握し、めあてを設定する。 ○幼児期の自分の体と今の体を比較する ・体重 手の大きさ 足の大きさ等 わたしたちの体は、これからどのように大きくなっていくのでしょうか? 1. 学習を把握し、めあてを設定する。 ○ (1) (1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2	 ▶1スプレッドシートに1~4年の4月時の 身長を入力する。入力終了後教科書に1 年間に伸びた身長と3年間に伸びた身長 を転記する。 		
 2. 自分の1年生からの成長具合を把握する。 【個別】 ○自分が入学したころからどれくらい身長が伸びた か分かりますか? 各学年の4月の時の身長を調べてみましょう。 	1番 2番 3番 身長 3年 3年 2年 1 1年 1 1年間に伸びた長さ 0.0cm 0.0cm 3年間に伸びた長さ 0.0cm 0.0cm 3年間に伸びた長さ 0.0cm 0.0cm		
 ○身長の伸び具合を比べてみて、どんなことが分かりますか? ・それぞれの学年でばらばら ・みんな増え方が違う ○教科書18・19ページの図を見て、それぞれの身長の伸び方にどんな特徴があるかまとめてみましょ 	 2)質問紙フォームにクラフを見て気付いた 内容を記述する。 ○一人一人の身長の伸び方の違いは、「よい」「悪い」ではなく個人差であることに着目させる。 ○何も考えが出てこない児童には、「身長の急に伸びている時期」と「男子と女子の違い」などに着目させるようにする。 		
 う。 ・なな→9から12歳が一番伸びてる ・まなみ→9歳までに一気に伸びてる、 ・あかね→12歳過ぎてからほとんど伸びていない ・かずま→最初小さかったけど、最後一番伸びた ・こうき→12歳過ぎてから一気に伸びてる ・りょうた→伸び方があまりかわらない ・生活習慣を整える人が増えた 3.本時のまとめを行う ○成長していく中で、体が急に発育する時期や変化	の人生・「」 なこに 有日 さ せ るよ り に 9 る。 おおきくなってきたわたし ワークシート フィームの気地 このフィームでは 高山村気型号共会 のユーザーのメールアドレスが自動のにの集されます。 彼えた実策 ③みんなの身気の伸び発きをかて、気づいたことを言きましょう ジが式デキスト (BEQURE) ジは式デキスト (BEQURE)		

タブレット活用の効果

活動の様子とタブレット活用の効果





自分の身長の変化を調べる場面で、身長を入力する と各学年ごと、また入学から現在までの変化量を自動 で計算できるシートを使ったことで、計算の説明や手 間を省くことができた。

また、自動でグラフが表示されるようにしておくこ とで、容易に変化の具合の傾向をつかむことができ た。



Google フォームで作成した質問紙を classroom を使用して児童に配布しワークシートとして活用 したことで、すべての児童の意見や考え方を集約す ることができた。

また、全体の進捗状況の把握も可能となり、提出 されたものはすぐに集計されてグラフ表示をする ことができ、分かりやすく結果を示すことができ た。

授業者の声

よかった点

- ・結果を素早く集計・提示することができ児 童が多くの意見に触れることができた。ま た、発表が苦手な児童の意見も採り上げ て、他の児童に意見を伝えることが可能と なった。
- ・教科書のイラストと数値だけでは捉えに くい内容がグラフ化されることで分かり やすくなった。

- ・今回は19人と少人数だったので、スプレ ッドシートを共有する際の通信環境に配 慮する必要はなかったが、人数が多くなる とクラウド上のデータへのアクセスに支 障を来す場合があるので、その場合のバッ クアップも考慮に入れる必要がある。
- ・キーボードの入力に慣れていない学年だ と意見を書き入れるのに時間がかかる。ペンを使った入力方法や選択式にするなど、 場面に応じた使い分けを進めていく必要 がある。



タブレッ

٢

使用機能

アプリ等

使用台数

他のICT機器

ミライシード

大型テレビ

(ムーブノート)

教師 | 台 児童26台

本時のねらい

混み具合の比べ方について、タブレットを 用いて説明する活動を通して、単位量当たり の考え方のよさを実感し、そのよさを使って 考えを説明することができるようにする。

授業の流れ

主な学習活動	○指導上の留意点□タブレット活用場面
【前時まで】	○ワークシートを工夫し、操作活動をしながら自
	分の考えをまとめることができるようにする。
ミライシードのワークシートを使って、図を	
操作しなから混み具合の比べ万を考え、目分 ■ の考えたサ东両五に送信する 【個別】	→ □ ミフィンードのムーソノートに达信さ
の考えを共有画面に送信する。【個別】	れたワークシートを使うて、因を操作しな がら自分の考えをまとめる
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
1.本時の学習を把握し、めあてを設定する。	
[問題] どのように	▶1 点八の老さたり、ブリートの世友両王
したらBとCの	→ [] 日分の考えをムーノノートの共有画面 (みんかの広場) に送信する
混み具合を比べら	
れるたろうか。	
・どうしたら分かりやすく説明できるのかな。	
「めあて] 混み具合を比べる方法について、	○自分の考えを他者に説明すろ例を提示し、何を
図を使って説明してみよう。	そろえて比べたのかを伝えてから話し出すこ
	とを全体で確認する。
2 自分の考えについて説明」合う 【ペア】	
・シート1枚に何人いるかで比べたよ。	→2 ムーフノートに送信したワークシート
・図を見せながらの話すと説明しやすいな。	を使ってハノで自分の考えを説明し合う。
3. 解決方法や結果を全体で共有する。	→2 ムーブノートに送信された友達の考え
【一斉】	方をタブレットで確認し、どんな考え方で
○反達はとんな写え力で混み具合を比べた のかた	比べているのか友達の考え方を説明する。
 シルバル。 ・シートの枚数をそろえて比べていろ 	
・シート1枚に何人いるかで比べている。	
	1 I





図3 図を指差しながら説明する児童

【本時】

<ペア活動>

自分の考えを説明する際にタブレットを相手に見せながら話 している児童や図を指差しながら説明している児童(図3)が いた。自分の考えを表現することが苦手な児童も、図を見せな がらシート1枚当たりの●の数を比較して課題解決したことを 伝え、図や式を用いて自分の考えの過程を説明することができ た。

<全体での考え方の共有>

ミライシードのムーブノートを使い、大型テレビに映し出し た児童の考え方とタブレット画面とを共有させ、手元の図を使 って説明することができるようにした。全員がミライシードに 自分の考え方を表しているので、全員の考え方が共有できた。 発表した児童は、自分の考え方について図や式を示しながら、 どのように考えたのかを説明することができた。

授業者の声

よかった点

- ・図を操作して考えることで、視覚的に理解 することができ、自分の考えをもつことが できた。
- ・タブレットの図や式を示しながらペアで説明し合うことで、根拠を明らかにして自分の考えを表現することができた。
- ・ミライシードを活用し、複数の考えを共有 することで、公倍数を使った考え方で解い ていた児童が単位量当たりの考え方のよさ に気付くことができた。

- ・ほとんどの児童が同じ考え方で課題解決をしていた。多様な考え方を引き出すためには、児童が操作しやすいワークシートの工夫が必要である。
- ・比較・検討をする際には、タブレットだと画面が小さく見づらい。自力解決、集団解決場面において、どのように ICT を活用するのが児童の理解に有効なのか、今後も検証していきたい。

9 6年の実践(体育)

タブレット活用場面



1 単元名 跳び箱運動

2 本時の展開

(1)ねらい

回転技の「踏み切り・着手・着地」のポイントを踏ま え、見本動画と比較することで、自己や仲間の動作を 分析し、助言し合うことができる。

タブレット	使用機能 アプリ等	カメラ 動画撮影 ウゴトル 動作の比較 Google スプレッドシート
	使用台数	教師 台 児童29台
他の]	CT機器	大型テレビ

(2)授業の流れ(4/6校時)

主な学習活動	○指導上の留意点 □タブレット活用場面
 「導入」(10分) 1. 体操・補強運動・整列・あいさつ 2. 前時までに学習した3つのポイント(踏み切り・着手・着地)を踏まえ、めあての確認 ■ 回転技の3つのポイントに注意をして、自分や友達の動きを確認して、アドバイスし合う 	 ○ケガ防止のため、体操と補強運動は念入りに行うよう声がけをする。 1-1 回転技のポイントを見られるように拡大コピーを掲示し、大型テレビに手本動画を映して動作を確認する。
ことができる	
 3. グループで動作の確認 (iPadタイム①) ・① 試技 → ② 撮影 → ③ 課題探し ▲ ローテーションをしながら1人1回試技 	 □-2 自分のiPadをグループの友達に渡し、動画を撮影し、見本動画と比較し、動作を分析・助言(カメラ・ウゴトル) ○待ち時間をなくすために、空いている場所を教えたり、動画比較の準備をさせたりする。
4. 個々で5分間練習(レベルアップタイム①) ・自分の課題や技量にあった場を選択し、練習する	○運動量を確保するためにレベルアップタイムはi Padを使わず、練習に取り組ませる。
 5. グループで動作の確認 (iPadタイム②) ① 試技 → ② 撮影 → ③ 課題探し ローテーションをしながら1人1回試技 	 1-3 自分のiPadをグループの友達に渡し、動画を撮影し、見本動画と比較し、動作を分析・助言(カメラ・ウゴトル) ○待ち時間をなくすために、空いている場所を教えたり、動画比較の準備をさせたりする
6. 個々で5分間練習(レベルアップタイム②) ・自分の課題や技量にあった場を選択し、練習する	○運動量を確保するためにレベルアップタイムはi Padを使わず、練習に取り組ませる。





動作の確認・比較と助言



 自己の動作を手本動画と一画面で比較する ことで、自己や友達の動作を分析し、課題を 明確にすることができた。そのため、本時の 「助言し合う」というねらいにつなげること ができた。





・技能面の自己評価を点数化し、第1
 時の授業から継続して記録を残す
 ことで、変容を可視化することが
 できた。

授業者の声

よかった点

・一画面で動作を比較できたことで、全員が動作の分析ができ、助言し合うことができた。

・iPad タイムとレベルアップタイムを分け、思考の時間と運動量の確保のバランスがとれた。

- ・助言できたことを一覧にして、どんな助言ができたかを共有できるようにする必要がある。
- ・手本動画との比較だけでなく、第1時の自分の動作と比較をして、どのように技能が向上したかなど が分かるようにし、児童の意欲をより高める必要がある。